

会 議 名	第 5 回狭山市協働推進委員会（協働事業報告会）
開 催 日 時	平成 3 1 年 3 月 1 8 日(月) 午後 1 時 3 0 分～午後 5 時 0 0 分
会 場	狭山市役所 7 階研修室
出 席 者	狭山市協働推進委員 9 名（欠席 1 名）
議 題	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議 題</p> <p>（1）平成 3 0 年度行政提案型協働事業の事業報告（行政提案型協働事業実施団体による事業報告）</p> <p>（2）平成 3 0 年度市民提案型協働事業の事業報告（市民提案型協働事業実施団体による事業報告）</p> <p>（3）総括および講評</p> <p>（4）その他</p> <p>4. 閉 会</p>
協議概要	<p>議 題</p> <p>（1）平成 3 0 年度行政提案型協働事業の事業報告（※資料参照）</p> <p>○駅前発！楽しく学ぶ自分磨き講座</p> <p>Q：参加者が、講座の内容によって幅がある。今後参加してもらうためのPRはどのようにしていくのか？</p> <p>A：広報さやま、チラシ、ポスター、FB、HP等でやっている。今回は、天候にも左右されることがあった。</p> <p>Q：多くの媒体を使って宣伝しているが、テーマにばらつきがある。アンケートの分析を行い、ニーズをよくつかんでテーマ設定に生かしてほしい。</p> <p>Q：初めての人が 56.4%いる。新しい人をどう増やしていくか？</p> <p>A：アンケートの情報を活かしていきたい。</p>

○自主防災組織連絡協議会設置事業

Q：どういった条件が整えば設置につながっていくのか

A：基本行政が進めていくが、まずは地区単位でと考えている。市で進めていく中で、今まで作った土台を活用して全体につなげていきたい。

○子育て世代参画によるさやまし魅力発信事業「ママ発！さやまし」

Q：vol1とあるが、次も考えているのか？

動画を使ったの情報発信も面白いのでは？

A：続けてできると会としてもうれしい。

Q：発行部数は？

A：1万部を予定。3月末に納品を予定しています。

Q：配布はどこを予定しているのか？

A：公共施設や、保育所、不動産関係の店舗を予定。

アンケートなどの反応を確認できるところを考えている

○観光パンフレット作成事業

Q：いいものができた。市外の方が手に取れるよう活用してほしい。を様々な世代に活用できると思う。

Q：どのくらい作るのか？

A：観光協会に作成をしてもらう。2,000部を予定(1,000×2) HP やさやマルシェ等を使って市外の方にもPRに努めたい。

Q：作成に携わった人数は？

A：会のメンバーは18人だが、作成の中心は7人。

(2)平成30年度市民提案型協働事業の事業報告(※資料参照)

○らーふてらこや LET'S ENJOY ENGLISH

Q：一度参加した。楽しく参加できた。個人的に評価を×とした理由は？また、英語畑を探してみたが場所がわからなかった。

A：途中で去っていった方へのフォローができなかった点や、試行錯誤しながらの運営だったので。

英語畑については看板を多く設置した時期と少なかった時期があるので分かりづらかったかもしれない。

Q：異文化交流の視点ではどうか？

A：6月にアメリカから来日した高校生が参加してくれた。

また、今年度が40人以上の外国の方が参加してくれたのでその点でもよかったと思う。

Q：今後の事業の継続は？また、外国人の方はどんなきっかけで参加してくれたのか？

A：土台は整ったと思うので継続できると思う。

外国人の方については、人のつながりが大きい。

○体験型防災学習

Q：密度の濃い事業だと思う。

（個人的な興味でだが）少ない朝食をどう分けたのか？
量の多い少ないでもめなかったのか？

A：特にもめることなく分けていた。（食べ物の好みが分かっていたようだった）。少ない朝食だったが、本番に近い環境を経験できたと捉えている。

Q：2回とも子供たちにとってよい体験だったと思う。

何か体験を通して変化はあったのか？

A：公衆電話を使うことがないので、新鮮な体験ができたと思う。

アンケートにも勉強になったとの回答があった。

また、震災の映像を流したが、自分の活況が恵まれているとの実感を持たせることができた。

帰宅ハイクも達成感があったとの意見もあり、体験から多くのことを学ぶことができたと感じている。

Q：遊びから体験できたのがよかった。今回の事業を通じて団体への加入者は増えたのか？

A：今回の参加者からは、加入者はいないが、団体の認知度は上がったと思う。

○犯罪被害者等支援事業

Q：非常に多くの参加者が集まり、よかったと思う。

A：支援してくれる方の温かさを感じた。また市民大学の参加者が多く、ありがたかった。

○車椅子ビリヤード

Q：事業の意義はあった。事業をもっと知ってもらおう努力をすればもっと広がると思う。

A：障害者の方の団体と協力して活動を広げていきたい。

Q：ハンディキャップのある方、ない方の共生を掲げていたのに、募集で対象を限定しているが。

A：ハンディキャップのある方に多く触れてもらいたいと思い、限定する表現にしてしまった。今後は限定しないようにしたい。

○産後ケアネットワーク事業

Q：（1年目であるが）今後事業を継続していくための考えは？

A：補助金がなくなった後は、参加費を上げること考えている。
（500円→1,500円）

また、保育付きを協働事業で行えたことが、好評だったのでこれからも続けていこうと思う。

Q：悩みを打ち明けられないママさんについてはどう広めていくか？（参加できる方は、基本元気な方との意味で）

A：参加している方も、最初はそういった方が多かった。
参加し、体を動かすことで徐々に元気になっていった。
輪を広げることでそういった方にも参加してもらえらると思う。

（3）総括および講評

【委員からの意見】

- ・狭山市を良くしていくために、それぞれリーダーシップを発揮されていると思う。事業の目的に向かって少しずつ成果が出ているのが感じられて良かった。
- ・協働事業を実施するグループは、掘り起こせばたくさんあるのではないか。人材はいると思う。掘り起こしのための工夫が課題。
- ・「協働フォーラム」のようなものを開催するののも一つの案である。
- ・なるべく多くの活動に顔を出すように心掛けてきた。
今日の発表の場に、なるべく多くの行政の職員が参加して、活動を知って欲しいと感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの字が小さく見づらかった。見せること・伝えることを意識するよう支援して欲しい。また、発表を他の市民の人にも聞いて欲しいと感じた。 ・発表資料に写真が無いところもありもったいなく感じた。 ・この制度も7年目を迎え、熟してきたと思う。市からの補助金が無くなっても事業が持続できる仕組みをアドバイスすることが大事だと思う。行政から先を見据えた提案があっても良いと思う。 ・これまでは、事業の実施に手一杯だったという一面もある。先を見据えた協働事業の審査に改善の余地があると思う。 ・市民の皆さんが力をつけて来ていると感じる。 市民の方がやりたいことを、どう生かしていけば良いのかを考えなければならない。 行政に対し、資金を頼るという意識が変わってきている。 自立の道をどうアドバイスしていくかが、行政の課題だと思う。 ・この先も楽しみである。市の職員は市民が思っていることを感じたり、知ったりして欲しい。一緒に関わり、寄り添っていくことが必要だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回狭山市協働推進委員会 次第 【資料1】平成30年度提案型協働事業一覧 【資料2】狭山市協働事業完了報告書及び収支決算書（9事業） 【資料3】平成30年度提案型協働事業評価表 【資料4】平成30年度提案型協働事業報告会スケジュール 【資料5】平成31年度提案型協働事業応募要項 【資料6】パワーポイント資料
事務局	協働自治推進課 協働自治推進課長 主幹（2名）・主事 以上4名